

石高神土土報

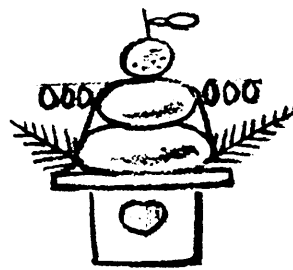
年中行事 正月

正月は、ただ年があらたまるといふのではなく、正月の神様がおいでになる時なのです。この神様は年神様とも歳徳神（としとくがみ）ともいわれています。もともと正月は盆とともに御魂祭りの機会であり、祖神の恩恵に感謝のまごころを捧げる日だったようです。稲作農業社会では、先祖が与えてくれる最大のおかげは作物の豊穰です。年神様は古事記では、須佐之男之命の子とされ、五穀を司どる神と考えられていることから祖霊11年神となったようです。新しい年の穀物の実りを約束してくれ、私たちの生命を与えてくれる神様であり、いつも私たちを見守っていてくれるご先祖様であるとも言えます。この神様をおまつりする期間が正月で、三が日は特にそのために仕事を休むのです。

さて、お雑煮やお節料理など、正月にはなくてはならない食べ物がありません。正月に普段と違った特別な食べ物をつくるのは、年神様にお供えするためです。それを皆で分け合って食べるのが祭りの基本的な形です。これらの食べ物の中心は餅です。年神様は私たちの生命のもとである穀物の神様ですので、餅は年神様の宿っている

食べ物です。特に鏡餅は神霊の宿るものとして大切にされます。鏡開きの時、刃物を使わずに、手や槌で割り開くのはそのためです。お年玉も古くはお餅でした。年神様の御霊のこもった餅を、主人が家族達に分け与えたのがはじまりです。お年玉はただのお祝いのプレゼントではなく、ご先祖様の霊を毎年

いただく、受け継いでいくという大切な意味があるのです。また、十五日は小正月です。新年のおかざりを取って焼く「どんど」の行事はこの頃行なわれます。年神様は空をこがす「どんど」の炎とともに帰って行かれるとも言われます。



石高神社の正月行事

元旦の午前零時から歳旦祭を行ない、このあと新年祈禱を一時前まで行ないます。正月三が日は新年祈禱をはじめ各種祈願を行ないますので、ご希望の方は拝殿にお上がりください。また、二月一日が厄払いの日になっていきますが、正月三が日または一月の日曜日の午前中にもお参りください。一月十五日朝は神社のおかざりの「どんど」をしますが、この時古い御神札を燃やします。古い御神札をお参りの時にお持ちください。

御神札の頒布について

前号の社報でお知らせしましたように、御神札（おふだ）の頒布を今年より年一回年末にだけ行なうことになりました。おまつりいただける全ての御家庭に頒布するという考えから、諸事情を考慮してこのような形になりました。金額は千円が標準となりますが、五百円でもかまいません。御理解とご協力を賜わりまして、できるときり多くの御家庭で氏神様の御神札をおまつりされますようお願い申し上げます。総代のいない町内につきましては、お正月にお参りになった時に神社にていただかれますようお願い致します。尚、このお金の一部は、神社の修理に使わせていただきます。

末社紹介



臥立巖宮

沢田の恩徳寺といっしょにある巖稲荷（たていしなり）を祭っています。境内の南東の場所にあります。ここはもと絵馬殿のあった所です。当時は、その中に社がありました。絵馬殿が壊れてからは一時社務所の縁側にありました。二十年程前に今の位置に石組みをして社を置きました。

御寄付の御札とお願ひ

昭和三年から使用していた本殿の幕が老朽して困って、いましたところ、だけ町内会長の小原勝男氏企画により、

三協総業株式会社様が寄贈してくださいました。ありがとうございます。

また只今、お祭りに灯もすちょうちんの御寄付をお願いしております。寄贈者の御芳名を入れて来年の輪くぐりまでに作りたいと思いますので、早めに総代または宮司までご一報くださいますようお願い申し上げます。

後

記

今年は例年になく台風が多く、浸水・土砂崩れ等の被害がありました。このあたりは昔から天候・風土に恵まれた平和で裕福な土地です。この恵みに感謝する気持ちを忘れないようにしたいものです。平成三年の新しい年を迎えるにあたり、天下泰平を祈りつつ後記に代えさせていただきます。

第八号

発行日 平成二年十二月十五日

発行者 石高神社 宮司 高原 章兆

発行所 岡山市円山八五三 石高神社

TEL 七七一九〇〇三